

小さなひとりの大きなゆめ  
Little People, BIG DREAMS™

# マザーテレサ



マリア・イサベル・サンチェス・ベガラ 文 ナターシャ・ローゼンバーグ 絵  
なかがわ ちひろ 訳





アグネスは、いつも<sup>きょうかい</sup>教会で、<sup>かみ</sup>神さまに、おいのりをしていました。  
いまに、じぶんが、<sup>せかいじゅう</sup>世界中の<sup>ひと</sup>人びとから、マザーテレサと  
よばれることになろうとは、ゆめにも、おもっていませんでした。



あるとき テレサは、みちばたで たおれている <sup>おんな</sup> <sup>ひと</sup> 女の人を見つけました。  
コルカタの町には <sup>いえ</sup> <sup>ひと</sup> 家のない人が たくさん います。くすりは もちろん、  
たべるものもなく、<sup>びょうき</sup> 病気になっても <sup>そと</sup> 外で ねていることしか できないのです。  
この人たちを <sup>ひと</sup> たすけるために わたしは インドへきたのだと  
テレサは おもいました。





マザーテレサが どんなときにも ころがけていたのは  
みぢかで つらいおもいをしている<sup>ひと</sup>を みすてないことでした。  
その やさしいきもちが いまも <sup>せかいじゅう</sup>世界中で たいせつにされています。





# マザーテレサ

MOTHER TERESA

1910 - 1997



1925年 15歳のときに姉と  
(左側がアグネス)



1930年 20歳



1971年 61歳

マザーテレサの本名は、アグネス・ゴンジャ・ボヤジュといひます。

ギリシャのとなりにある北マケドニア共和国\*1の首都スコピエで生まれ、両親と姉、兄の5人家族で育ちました。両親は熱心なキリスト教徒\*2で、こまっている人がいれば、すすんで手をさしのべるあたたかな家庭でした。しかし、アグネスが9歳のときに父が急死します。

12歳のときに、アグネスは遠い国でまずしい人びとを助ける宣教師になりたいと思ひました。その後、18歳でアイルランドにあるロレット修道院に入り、そのわずか数週間後にはインドへと旅立ちます。そこで修道女としての修行を続け、20歳のときにテレサという名前をもらひました。そして、コルカタ\*3にある聖マリア高等女学校の教師として長年にわたって地理を教えました。のちには校長もつとめてひます。学校は修道院の中ひあり、とてもめぐまれた環境でしたが、壁の外には家も食べ物もない人びとがあふれてひました。第二次世界大戦やインドの独立と分裂をめぐる争ひの結果、多くの難民がコルカタにおしよせたためです。

36歳になったテレサは、もっともまずしい人びとのために働くことを決意して修道院をでます。病人のせわをするために看護の基礎をまなび、たったひとりでスラム街にむかひました。このときにテレサが選んだ服が、インドの女の人ができるサリーのなかでいちばんそまつな白ひ木綿の布に青ひふちどりのあるひものです。貧困からぬけだすには教育が重要だと考えるテレサは、子どもたちに文字を

教えはひじめます。教室も黒板もなく、地面に棒で文字をかく青空教室でしたが、テレサを慕って子どもたちが集まり、やがて場所や教材の寄付をする人たちがあらわれます。かつての教え子たちもテレサの手伝ひにかけつけました。

テレサは「神の愛の宣教師会」をたちあげ、その長としてマザーとよばれるようひなりました。

マザーテレサは、インドでもっとも多くの人に信仰されてひるヒンズー教寺院のかたすみの建物をかりると、そこを「死を待つ人の家」と名づけました。路上でたおれてひる人びとを運びこんで最期をみとるためですが、キリスト教をおしつけることはせず、それぞれの宗教にのっとして見送りました。回復のみこみがない病人であつても人として敬うべきであり、なによりつらいのは、だれからも相手にされなひことだといひるのがマザーテレサの考えだつたのです。

また、マザーテレサは親のひない子どもたちの家もつくりました。子どもがふえて食べ物たりなくなり、空港に交渉して飛行機の遅れや欠航で捨てられる機内食をまわしてもらったこともあります。さらにハンセン病\*4患者のもとへも、ボランティアの医師をつれてでかけました。街中に投げすてられてひるココナツの殻を回収してマットや敷物、ロープやタワシなどをつくることを思ひつたのもマザーテレサです。ゴミを利用してお金をかせぎ、環境美化にもなる仕事は、患者たちの自立を助けました。

やがて神の愛の宣教師会の活動は世界中へと広がりました。1979年、ノーベ